

静岡県（下田市）地区ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業

下田市ユニバーサルツーリズム推進協議会

1. はじめに

静岡県下田市は、伊豆半島の先端に位置し、ペリー来航をきっかけに近代史の舞台となった地です。市の基幹産業は観光であり、海水浴と蓮台寺温泉の宿泊客が中心となっています。オフシーズンは了仙寺や宝福寺などの歴史舞台となった寺社への立ち寄り程度にとどまる限定的なバスツアー客がほとんどで、年間を通じた誘客が市の課題となっています。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを見据え、ユニバーサルツーリズムの取り組みを開始した静岡県に歩調を合わせ、ユニバーサル観光都市として障害者や高齢者も楽しめる観光地づくりと、益々拡大する訪日外国人観光客への対応に取り組む必要性が認識されています。訪日外国人観光客への対応としては、昨年度より標識やパンフレットの多言語化などの整備を始めました。一方、ユニバーサルな観光地づくりのため、車いす利用者やベビーカー利用者でもバリアを回避しながらまち歩きを楽しめる仕組みづくりが課題となっています。そこで、市の大きな観光資源である「街並みと商店の魅力」を活かした、「誰もが歩いて楽しめる観光都市」の実現に向けて、下田市観光協会、交通機関や観光地域づくりに取り組むNPO等が連携して「下田市ユニバーサルツーリズム推進協議会（代表団体：NPO伊豆のせんたんコンシェルジュ）」を発足しました。

このような背景の中、下田市ユニバーサルツーリズム推進協議会では、国土交通省の「平成25年度ユニバーサル社会に対応した歩行者移動支援に関する現地事業」実施個所の選定を受け、下田市を訪れる外国人観光客に対する、言語での情報コンテンツや、車いす利用者に対してバリアを回避した観光ルートの表示・案内を行い、より安心に、より便利に移動できるよう、歩行者移動支援サービス（以下、「下田に行こう」という）の導入に取り組んでいます。



写真1：下田市の様子（ペリーロード）



図1：サービス対象エリア

2. 「下田に行こう」システムの概要とサービス内容

(1) システムの概要

スマートフォン/タブレット用アプリケーション「下田に行こう」は、スマートフォンでの情報取得・閲覧に優れた観光情報プラットフォームである「Japan2Go」システムを活用しています。位置情報技術（GPS測位、Wi-Fi）を用いて特定した現在地情報、および傾斜や段差等のバリア情報を付与した歩行空間ネットワークデータを組み込んでシステムを構成しており、利用者の状況・ニーズに応じたモデルルートおよびバリアフリー情報や観光情報の提供を行います。

また、同サービスの特徴には以下の3つがあります。

- ①伊豆のせんたんコンシェルジュ、下田市観光協会、商工会議所、東海自動車、伊豆急行等が連携しコンテンツ作成を進めている。

- ②国内外で普及が進むスマートフォンを主な利用端末と想定し、Android OS(スマートフォン/タブレット)、iOS (iPhone/iPad) での利用が可能であること。
- ③実証実験エリア内でのきめ細やかなモデルルート案内に加え、エリア外からでも利用できる経路検索システムを導入していること。

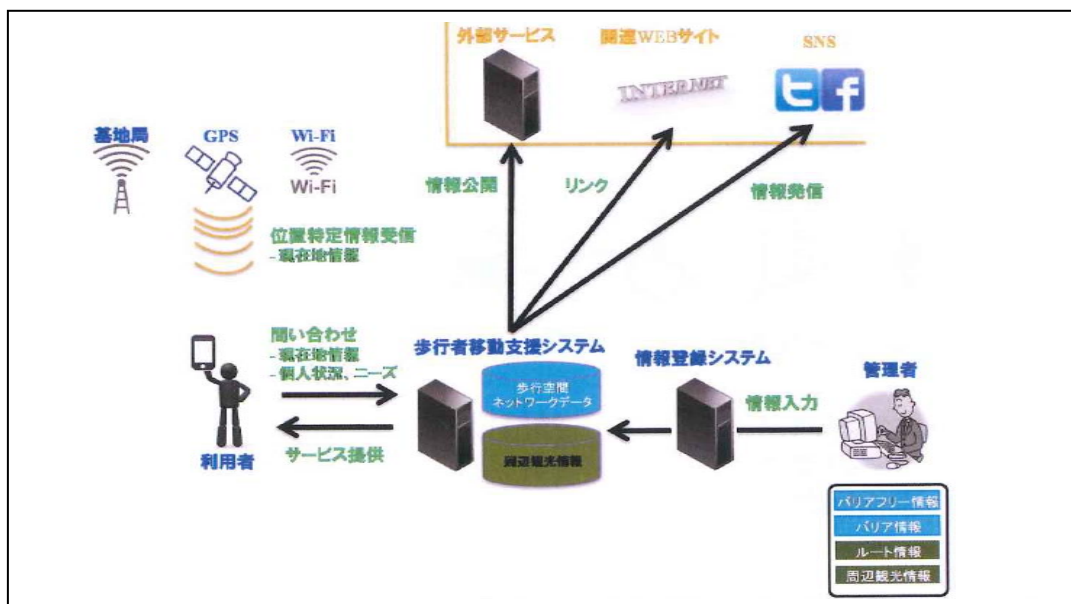


図 2 : システム全体構成図

(2) サービス内容

「下田に行こう」は、AppStore および GooglePlay より専用アプリケーションをダウンロードすることで利用可能となります。

【利用者向けのサービス】

- ・利用者の状況やニーズに応じたモデルルートを選択することでルート案内を受けることができます。
- ・利用者の携帯端末の利用言語に応じて日本語、英語、中国語(繁体字、簡体字)、韓国語が自動選択されます。
- ・目的の決まっている利用者の場合、ジャンルおよびフリーワードで情報検索をすることが可能です。
- ・Twitter/Facebook などの SNS を使った情報発信を行うことが可能です。



トップ画面イメージ

充実した基本機能を搭載

- ①スライドショー機能
- ②テロップ表示・URLリンク集
- ③リスト検索
- ④スポット情報
- ⑤旅の軌跡
- ⑥お気に入り
- ⑦周辺検索
- ⑧モデルコース
- ⑨AR
- ⑩多言語
- ⑪GPS連動機能

図 3 : 「下田に行こう」トップ画面と基本機能

3. 実証実験について

1) 歩行空間ネットワークデータ整備実験の取組み

(1) 整備実験の概要

「下田に行こう」のサービス開始に向けて、下田市ユニバーサルツーリズム推進協議会は、市役所、住民、社会福祉協議会等と協働し、官民連携型・市民参加型で現地調査を行いました。車いす利用者にも実際にモデルルートを踏査してもらいながら、段差や傾斜などバリアフリーに関するデータ収集と計測、利便性等を評価するためのアンケートにご協力いただきました。

(2) 整備実験の状況

12月10日に車いす利用者3名、介助者1名を含む16名で実施しました。この取組みで、車いす利用者への推奨ルートが再検証されるとともに、サービス対象エリアのバリアについて参加者の気づきを促すことができました。また、伊豆新聞、NHK静岡放送局、下田ケーブルテレビ、FNNテレビ静岡で報道され、「下田に行こう」に関する地域住民への周知と理解度を高める効果がありました。



写真2：整備実験の様子



図4：歩行空間ネットワークデータの整備状況

【参加者の感想】

- ・今まで段差や傾斜など気にせず歩いていたが、今後はバリアについて意識するようになるだろう。
- ・側溝や道路の小さな溝に車輪がはまると困る。車いすだと一人で行動するのが怖いと感じた。
- ・トイレや駐車場だけでなく、障がい者にも優しい飲食店等の情報もマップに盛り込んではどうか。
- ・事業完了後に利用者の感想を聞くのではなく、計画段階から利用者の意見を聞くことは不可欠。
- ・ハード事業もさることながら、このような市民参加による取組みで人によるソフト面も大切であることを住民に指し示していくと良いと思う。

2) 実証実験（モニター調査）について

(1) 実験の概要

下田市ユニバーサルツーリズム推進協議会は、「下田に行こう」サービス開始にあたり、官民連携・市民参加型での実証実験を2回実施します。利用者から評価や感想を得るため、アンケー

ト調査も行います。

(2) 実験の状況

2月14日にデモ版にて実証実験を開始し、第1回目のモニター調査を実施しました。当日は、本事業関係者および下田市役所職員、地域の福祉関係者、観光関係者ら14名が調査に協力し、以下のような所感を得ることができました。

【参加者の感想（抜粋）】

- ・AR機能がすごく良かった。イメージ画像が多いと良いと思う。
- ・マニアックな情報があればもっと面白くなると思う。
- ・継続利用のためにアプリにゲーム性を持たせてはどうか。
- ・コンテンツの充実を期待。(店舗情報、まち歩きモデルルート、バリアフリー情報、医療機関、緊急避難経路など)
- ・音声案内があるといい。(画面を見て歩くのは危険、段差や傾斜などのバリア情報など)
- ・ガラケーへの対応はないのか。
- ・より広い範囲(市内全域)で使えたら良い。

4. おわりに

「下田に行こう」は、3月1日にサービスを開始(システムリリース)し、第2回目のモニター調査(3月5日)には、車いす利用者、介助者、外国人の皆様にもご参加いただきました。モニター後にはアンケート調査や意見交換会などを行い、利用者の声をできるだけ反映できるようシステムの改良やコンテンツの充実を図りながら、継続的な運用に結びつけていきたいと考えています。

システムリリース後の取組みとして、無料の観光情報配信プラットフォームであるソフトバンクモバイル社提供の「ふらっと案内」への情報掲載やNPO法人伊豆のせんたんコンシェルジェが運営するWEBサイト「伊豆たび」への情報掲載も行い、「下田に行こう」を広く情報公開していく予定です。

来年度以降は、下田市役所と連携を図りながら防災情報など市の情報との連動も視野に入れ検討していくとともに、ユニバーサルツーリズムの地として、伊豆地域のユニバーサルツーリズム事業関係者とも連携を促進し、地域全体の競争力強化に向けて展開していきたいと考えています。